

# 松村通信第59号

2005年3月20日  
松村勝弘

## これからの社会

**美しく衰退できるか** 毎年毎年卒業生を送り出している。果たして卒業した彼・彼女らがどのような将来を歩んでいくのか、私・私たちがどれだけのことを教えることができたのか、疑問なしとしない。とはいえ、21世紀がどんな世紀になるのか予想するのは困難である。20世紀はそれと比べれば「進歩」という言葉でくくれるような、比較的単純なものであった。しかしその実、「進歩史観」はきわめて怪しげなものであったとも言える。欧米並びに日本はもはや成長の限界に達しているように思われる。中国・インドが21世紀前半の世界のある部分を代表することになるだろう。もちろん西欧や日本がストレートに衰退するというわけではない。フランス、英国、米国などなかなかしぶといと思う。それと比べて、日本が頼りなげだ。本当に衰退しかねない。かつて京都大学名誉教授の高寺貞男先生が言われていた。イギリスは衰退しているが、美しく衰退している。果たして日本はそのように美しく衰退できるか。そうでありたいが、醜く衰退しそうな予感がする。このように言われていたのを思い出す。

**少子高齢化・人口減少** 少子化し高齢化する中で人口が減少していくわけであるから、日本の活力が低下すると予想できる。問題は美しく衰退できるかどうかだ。人口が減少すると言うことは、これまでのように、あくせく働いてようやく一戸建てを手に入れたというような物質的とでも言える「幸せ」とは、違った、精神的な豊かさを追究するゆとりが出てくるはずだ。ところがむしろ日本人の精神面が退化していつている予兆がみられる。先頃報道されていた「日・米・中三カ国の高校生を対象にした意識調査」によれば、次のようであったという(yahooヘッドラインニュース 産経新聞 3月16日)。

将来への希望を問う設問では、「将来は輝いている」「まあよいほうだが最高ではない」と答えた割合は中国が80%と最も高く、日本は54%で最も悲観的であることが分かった。

さらに、勉強については「平日、学校以外でほとんど勉強しない」が45%(米15%、中8%)、「授業中、よく寝たり、ぼうっとしたりする」も73%(米49%、中29%)と、学習意欲も米中に比べて明らかに低いことが裏付けられた。

生活面では「若いときはその時を楽しむべきだ」と答えた高校生の割合も三カ国で最も高かった。

これは何も高校生の問題ではない。まさに親の世代が病んでいる証拠である。確かに中国や米国は日本より成長余力がありそうだ。ではどうすればよいのか。日本が米国のまねをしても始まらない。日本的なスタイルを自信を持って世界に問うていくしかない。それは米国的なお金万能社会を構築することではないだろう。「武士は食わねど高楊枝」とはよく言ったもので、またキリスト教でも「人はパンのみにて生きるにあらず」というではないか。物的豊かさには限界がある。経済成長・企業成長でもさもしい人がリーダーになったらうまくいかない。物的豊かさですら、精神的豊かさの裏付けがないと実現できない。そこを忘れるから失敗する。

**ライブドアvs.フジテレビ** そういう意味では、最近のライブドアの堀江モンにも若干の危うさを感じる。フジテレビの日枝会長も傲慢さばかりが目立つ。両者ともに日本的な良さをあまり感じさせない。同じM&Aでも、日本電産の永守会長には好感が持てる。もちろんいろいろあるだろうが、たたき上げの現場力を感じる。最近の私は現場力を重視している。実はこれが日本(企業)の強み・良さのはずだと思っているからだ。

ライブドアとフジテレビの間のニッポン放送の支配権をめぐる争いについてまとめておこう。私の日誌にも書いたが再録しておきたい。私は、資本の論理で迫るライブドアに対して、フジテレビが資本の論理で真っ向から受けてしまったことが失敗だと思う。「資本主義」の論理で攻められたら、日本企業として、例えば、伊丹氏の言うような「人本主義」の論理で反撃する、これが正解だったと思う。

ようやくにして、その方向が見えてきた。ニッポン放送で労働組合が出来たり、ポニーキャニオン従業員の声明が出てきたり、という具合に、私の見方によれば「まともな」対応になってきた。ただし、初動を誤った。そのミスを取り戻すのには時間がかかりそうだ。ライブドアがニッポン放送への攻撃を仕掛けているのに、当初からニッポン放送が表に出ないでフジテレビの日枝会長が前面に出るなど初動の失敗は大きい。

かつて、北朝鮮が韓国を相手にせず米国出てこいと言っていたのに似ている。韓国は米国の傀儡だから韓国とは交渉しない。米国と交渉したいと言っていた。最初は米国が前面には出なかったものだ。ところが、フジテレ

ビはまんまとライブドアの作戦に乗り前面に出てしまった。そして、日枝 = 悪玉，堀江 = 善玉，というマスコミ受けするシナリオにまんまと乗ってしまった。堀江モンだって，そんなきれいなものではないのだが，老巨悪に立ち向かう若者然とした振る舞いで得点を上げた。日枝会長は，読売の渡辺会長，NHKの海老沢会長と同列に見られてしまった。

これらマスコミの巨頭がマスコミ対策を誤るなどプロにあるまじきことだ。フジのTOBの代理人大和SMBは一体何をしていたのか。こちらプロらしくない。(リンゴではないが)フジも甘い。このあたりの事情は下記サイトを読めばわかる。

<http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/yw/yw05022701.htm>

**勝ったのはリーマン?** で，結局勝ったのは，ライブドアに資金提供を行いその見返りに新株予約権付き社債を極めて有利に受け取ったリーマン・ブラザーズなのだろうか。もっとも「ブロードキャスター」という番組で，榊原英資氏がリーマンが勝ってライブドアが負けたと言っていたという。果たしてどうだろう。ライブドアが負けたかどうかはともかくとして，リーマンが勝ったことは間違いない。

何せリーマン・ブラザーズは，ライブドアの転換社債，正確に言うと「修正条項付き転換社債型新株予約権付き社債」(MSCB)を安値で買って資金提供を行い，さらに堀江モンからライブドアの貸株を受けてこれを売ってもうけた。すでに数億の利益を確定している。貸株，すなわち借りた株式を株価が高いうちに売り抜け，その後株価が低下したら買い戻して，借りた株を返すわけだ。事実，ニッポン放送にM&Aを仕掛ける前は400円を超えていたライブドア株は350円を中心に上下している。だからリーマンは400円内外で売った株式を350円内外で買い戻しても利益をあげることができたはずである。リーマンは市場で350円で買い戻さなくても，転換社債(MSCB)は常にライブドアの株価の10%安の価格で株式に転換できることになっている。リーマンが18日に関東財務局に提出した大量保有報告書によると，リーマンは3月10日から17日にかけて，転換価額299~319円でMSCBを普通株に転換し，ライブドア株計1億3335万株を取得したという。この間リーマンが儲けたことは間違いない。

**日本の支配構造と堀江モン** いずれにせよ，誰が勝って誰が負けたのか，複雑な様相を呈している。堀江モンが過半数を握ったニッポン放送での堀江モンの振る舞いによっては，堀江モンに逆風が吹くかもしれない。堀江モンがニッポン放送の社員を敵に回したらうまく行かないはずだ。かつて，住友銀行が関西相互銀行を合併しようとしたとき，従業員組

合はおろか支店長も反対に回り，さらには顧客まで反対をしたので合併できなかったという事例がある。今回も従業員，経営者，さらにはリスナーまで反対に回れば，この合併は成功しないだろう。

先に日本電産の永守会長の話をしたが，永守会長は傾きかけた会社を買収して，自ら乗り込んでその会社を建て直すという，まさに現場から企業再建をされている。永守氏は相手会社の組合幹部とも話をして説得されている。このあたりについて，日本経済新聞社編『日本電産永守イズムの挑戦』(日本経済新聞社，2004年)に詳しく書かれている。

ニッポン放送やフジテレビの場合，日本電産が乗り込んで再建した三協精機などと違って，業績が悪化しているわけでもない。ここに難しさがある。堀江モンがピエロになる可能性がないわけではないが，今の日本企業が乗っ取りの危機にさらされていることは，以前から分かっていたことである。これへの対応の遅れこそが今の日本企業の問題である。日本企業にリスク・マネジメントの力がないといわれる。今回の場合もある種のリスク対応力が試されているわけである。フジテレビの対応を見る限り，決してうまく対応しているとは思えない。今回の事件を他山の石として日本企業に対応力を身につけてほしいと思う。

**リスク社会** 今まさに，日本はリスク社会に突入しているのである。これに気づいていない経営者が多いように見受けられる。経営者だけではない。日本の政治家にも危うさを感じる。あまりにも無邪気に「自己責任原則」を振りかざしているように見受けられる(澤邊紀生『会計改革とリスク社会』岩波書店，2005年参照)。グローバル化・金融化している現代社会はリスクに充ち満ちている。ファイナンスの世界ではリスクに充ち満ちている。今回のライブドア vs. フジテレビの争いは，実はそれを予兆しているのである。リスク社会はまた知価社会でもある。深い知識を持たないと，知らぬ間にリスクをとらされてしまい，それも「自己責任ですよ」と言われかねない。喻えがよくないかもしれないが「正直者が馬鹿を見る」かもしれないのである。よほど気をつけていないと「自己責任」ととらされるのである。若い人たちには知識武装をしてもらいたいと思う。

**HPを見て下さい。又何でも意見を。**

皆様のご意見を歓迎します。HP

(<http://www.finance.ritsumei.ac.jp/matsumura/>)もご覧下さい。また，メールで意見交換しましょう。メールをよこして下さい  
([matsumura@ba.ritsumei.ac.jp](mailto:matsumura@ba.ritsumei.ac.jp))